

登米市立小中学校等再編構想の改定に伴う意見及び意見に対する考え方

NO	頁	意見	意見に対する考え方
1	—	<p>「児童生徒が、多様な考えに触れ、切磋琢磨することで社会の形成者としての基本的資質を伸ばすことができる学校」のために各学年2クラス以上が必要な理由が説明されていない。</p> <p>何人以上の学級ならどういう効果があるのか等の根拠を示すべきではないでしょうか。</p>	<p>学校の小規模化が進むと、人間関係の固定化や新たな友人関係を築く機会が減少し、新しい考え方やものの見方に触れる機会が少なくなります。各学年2学級以上であればクラス替えが可能となり、児童が新しい考え方に触れる機会が増え、他者と考えを共有し、協力しながら問題を解決していく力が、より身に付くものと考えています。教育委員会の学校の適正規模・適正配置の考え方は登米市立小中学校再編基本方針の中で、お示ししています。</p>
2	—	<p>アンケートも再編ありきとなっており、反対意見の分析を拒絶している。アンケートとは反対意見を把握し、施策をより良いものにするためのものではないのでしょうか。</p>	<p>本市における小中学校の望ましい学級編制と学校規模の実現を図るための基本的な考え方として、平成27年11月に「登米市立小中学校再編基本方針」をまとめました。その際、保護者や地域の方々を対象とした座談会を開催し、学校再編の必要性について説明を行い、一定の理解を得たものと考えています。このアンケート調査については、そうした経緯の基に実施し、その結果を参考としながら本構想の策定を行ったところです。</p>
3	—	<p>統合後はTTなどの指導形態の工夫によるきめ細かい・・・とあるが統合しないとできないことなのではないでしょうか。</p>	<p>現在、市内でもティームティーチングを取り入れている学校はありますが、今後、学校の小規模化が進むと、教員数の減少も予想され、習熟度別指導といった指導方法をとることが困難になると考えています。そのため、児童の学習環境に影響を与えることのないように、更なる指導形態の工夫によるきめ細かい学習指導の充実などを、再編にあたっての配慮事項として掲げているところです。</p>

NO	頁	意見	意見に対する考え方
4	-	<p>クラス替えができないのが課題ですか？</p>	<p>「クラス替えができないのが課題ですか？」については、「NO. 1」の回答を参照願います。</p>
5	-	<p>保護者負担の課題について「一人当たりの負担の増加」とありますが、次項の適正配置の基本的な考え方にある「概ね1時間以内」とすると、8時に始業だとして「一時間」に該当する家庭では、親が家を送り出すのが7時という事になります。自転車通学可能な現在の小学校配置と比較して、多くの家庭で「毎日」の起床時間の前倒しになると考えます。</p> <p>P T A会員数減少による会員稼働は年に数回と限定されていますが、事、起床時間となれば、週5回、毎日であり、比較するまでもありません。よって、小学校の統合は一人当たりの負担の増加がさらに増すことになり、統合によるデメリットと言えます。</p> <p>一方で、スクールバスを使用しない場合、家人による送迎が必要となり、通勤経路に統合後の小学校がある場合を除き、送迎による各種費用の増加が「確実に」発生します。この場合、スクールバスの利用効率も下がることとなり、運営の費用対効果が悪化する上に、「負担」に金銭的なものも付加され、この場合も統合によるデメリットであり、より直接的なものと言えます。</p>	<p>学校再編後も遠距離となる児童の通学条件緩和として、スクールバス等による支援を行ってまいります。また、学校再編の検討の際は、学校と連携しながら通学支援の具体化を検討していくこととしています。</p> <p>学校の再編により、一部の児童の通学距離や時間が増加することについては、教育委員会においても想定しているところですが、「NO. 1」に記載したように、学校の小規模化を起因とする様々な課題の解消が必要となることから、デメリットを考慮した上で、保護者や地域の方々の理解を得ながら学校再編を進めてまいります。</p>
6	-	<p>スクールバスでの通学となった場合、家から乗車場所までの移動以外では、地域住民との挨拶も見守りもなくなる、地域住民が「子供がいるのはわかるが、どこの家の子（孫）なのか分からない」状態を助長する。この解消で地域行事の充実や増加を出すのであれば、それこそ「一人当たりの負担の増加」に他ならない。</p>	<p>スクールバス等による通学の際は、保護者や地域の方々の意見などを参考に乗車場所の設置を行い、その情報を地域内で共有していただきたいと思います。</p> <p>「乗車場所までの移動を地域とのつながりの場」として、今後も児童生徒の通学上の安全、安心が確保されるよう、地域での声掛け</p>

NO	頁	意見	意見に対する考え方
		また、登下校の途中で地域の自然環境に触れることもなくなり、学校では教わらない学びの機会を奪われる。	や見守りなど、ご支援をお願いしたいと考えております。
7	—	西郷地区は幼稚園を統合したことにより、西郷地区に住んでいるのに町中央学区への入学が発生しており、地区小学校児童減少の一因となっています。統合の先にある姿を見据えて対策を講じるべき。	少子化の影響により、市内小中学校においても児童生徒数が減少しており、この傾向は今後も続くものと予想されます。その中で特に影響を受けている小学校から学校再編に着手していますが、児童数が減少すれば、進学先である中学校の生徒数も減少していくことから、中学校の再編の方向性について本構想を改定し市内小中学校の今後の在り方についてお示したところです。
8	—	コミュニティスクール枠組みの活用については、目指す・あるべき姿で運用できているのであれば期待できるが、まだその段階ではないと感じる。	コミュニティスクールの取り組みとして、令和元年度から市内全小中学校において学校運営協議会を立ち上げ、保護者や地域住民の皆様の学校運営への参画や連携の強化を進めており、中学校区を単位とした合同会議を開催している地域もあります。 学校の再編を検討する上でも、地域コミュニティやPTA活動等とも連携を進め、学校運営協議会においても再編した場合を想定した協議をしていくことが重要と考えます。
9	—	金太郎飴のように、よくある教育課程を終えた子どもは出来るでしょうが、地域を知り・学び・育てられた子どもにはならない。	再編新校においても学校運営協議会の設置は行うこととしております。その際、各地域の意見を集約できるよう、組織構成などを検討し、統合後も各地域の取組を引き継いでいただき、学校運営に活かしていきたいと考えており、地域内活動を通して地域と児童のつながりを生み出していければと考えています。
10	—	スクールバスや自家用車の送迎で通学し、体育の時間しか運動らしい運動をしない子どもの増加は、現状でも多い子どもの肥満を助	通学時間の制約もありますが、スクールバス等の乗車場所を工夫することにより、徒歩による通学の機会を確保することは可能と考

NO	頁	意見	意見に対する考え方
		<p>長することになり、市HPの「適正体重維持を心がけましょう」に逆行する。スクールバスの場合、親子とも睡眠時間を削ることになり、健康上の明確なデメリット。</p>	<p>えており、徒歩時間の減少による体力低下など健康上の懸念については、学校生活全体を通して体力づくり活動を充実させるなど、方針付けをまいります。</p>
11	—	<p>地域ごとの再編で、災害時の地域の防災拠点としての役割がどうなるかも、他部署とも連携して検証をお願いしたい。</p> <p>市民が普段利用する施設が避難場所になっていても、ハザードマップで浸水地域になっているケースが現時点でも存在する。その上で学校再編後の利用方法によっては、地域に避難場所がなくならないか、場所があってもキャパシティが足りるのか等、確認が必要と思います。</p>	<p>災害時の指定避難所については、現在市内100箇所の施設が指定されており、市内全ての小中学校も避難所として指定されています。また、統合により使用されなくなった学校施設5箇所についても避難所に指定されているところです。</p> <p>今後、学校再編を進めることで廃校となる学校施設が発生する見込みであり、施設の用途変更や民間への譲渡、廃止等が想定されますが、避難所の指定については、地域の避難者収容人数などの十分な調整を行った上で見直しを行う必要があると考えております。</p> <p>そのことから、市の防災担当課へ学校再編の進捗状況について情報提供を行い、連携を図ってまいります。</p>
12	目次	<p>再編構想策定の経緯及び目的が、本文では（1）再編構想の経緯及び目的となっている。</p>	<p>ご指摘のとおりですので、本文を修正します。</p>
13	5	<p>③公共施設等総合管理計画の管理に関する基本的な考え方で、学校を地域のコミュニティ活動の拠点施設としての機能を持たせるとしてありますが、コミュニティ活動の拠点施設としては公民館があるかと思いますが、公民館との関係はどうなりますか。</p>	<p>③公共施設等総合管理計画・P5「地域のコミュニティ活動の拠点施設」については、「<u>地域</u>とのコミュニティ活動の拠点施設」が正しい記述ですので、修正いたします。</p> <p>公民館等については、現在、地域のコミュニティ活動の拠点施設として活用されており、今後も維持していく考えでおります。</p> <p>また、学校施設については、地域のコミュニティ組織で実施する運動会等のスポーツイベントで活用することも多く、事業を行う上で重要な場として捉えています。</p>

NO	頁	意見	意見に対する考え方
14	6	<p>地域の伝承文化、例えば東和町の神楽ですが、米谷、米川、錦織のそれぞれの小学校区に細野神楽、飯土井神楽、嵯峨立神楽とあります。</p> <p>これまではそれぞれの学校で伝承活動を行ってきたと思います。学校再編により一つの学校で複数の地域文化を伝承するのは困難かと思いますが、どれ一つ欠けることなく伝承していけるよう特に配慮願います。</p>	<p>学校再編にあつては、児童がそれぞれの旧小学校区で学んだことを誇りに思うような教育活動について、配慮することとしています。伝承活動については、学校と地域を結ぶ学校運営協議会等のご支援をいただき、継承を進めてまいります。</p>
15	9	<p>保護者アンケート結果のグラフの番号が、1（4）通学・通所施設の次に、1（7）通学方法となっています。</p> <p>1（5）と1（6）が抜けたのでしょうか、それとも結果の一部を掲載したのでしょうか。</p>	<p>本構想では、アンケート調査の結果を一部抜粋したものです。</p>
16	20	<p>（1）再編に向けた準備事項として、スクールバス等の運行等を検討しますとありますが、地域別の再編構想では、「スクールバス等の通学支援を行います」としているのです、スクールバス等の運行等を行いますとしてはいかがでしょうか。</p>	<p>スクールバス等による通学支援は、地域の実情に応じて検討する必要があります。</p> <p>そのため、地域別の再編構想を「スクールバス等の運行等を検討します。」に修正します。</p>